

## 木曽ヒノキ林を後世に残すための課題等

木曽ヒノキ林は先人たちの手が入ることで形成されてきた森林ですが、私たちが後世に残していくためにはいくつかの課題があります。

ササとの戦い

林内に後継樹が全く生育しておらず、林床を胸たけ以上の濃いササが覆い、今の状況では、今後とも天然更新が困難と見通しています。



下層はヒバばかり



地域によってはササの薄い箇所もあるものの、更新しているのは、暗い林内でも旺盛に生長するヒバの稚樹ばかりといった状況にあります。

困難な更新状況



昭和34年には、伊勢湾台風による風倒被害が発生し、一面あたかも皆伐されたのと同様な状態となってしまいましたが、ササが更新を阻害し、その後40年以上経った今も笹原のままです。



上層木の衰退

一方、昭和37年に保護林に指定し、保存に努めてきた木曽ヒノキ林では、近年、点々と枯死木が発生し、周囲に枯死が広がりつつあります。

このように、木曽ヒノキ林は、今後、上層木の衰退が進行する一方で、自然状態では更新が期待できず、このままでは木曽ヒノキ林の永続的な維持が危ぶまれる状況にあると考えています。